

令和4年度 第1回 大阪府立金剛高等学校 学校運営協議会

令和4年7月16日(土)
於：金剛高等学校会議室

議事録

1. あいさつ（梶井校長・外海教頭）

2. 出席者紹介（敬称略）

- ・村上 佳司（桃山学院教育大学 教授）
- ・大山口 公治（大阪府立金剛高等学校 金剛会代表）
- ・金 和子（とんだばやし国際交流協会 理事）
- ・井本 和代（大阪府立金剛高等学校 PTA 代表）
- ・下阪 善彦（藤陽中学校区地域教育協議会 元会長）
- ・藤岡 章寿（富田林市立葛城中学校 校長）
- ・長谷川 陽一（桃山学院教育大学 教授）

3. 委員長選出

村上 佳司 様

4. 協議

① 学校経営計画について（校長）

② 今年度の取り組みと報告

- ・卒業生の進路と今年度の進路状況（白附）
- ・各学年における生徒の様子
 - 3年生（松永）※不在のため外海教頭が報告書を代読
 - 2年生（井上）※不在のため菅野が報告書を代読
 - 1年生（朝隈）
- 共生推進教室（前田）
- ・学習指導部（菅野）
- ・企画広報部（宇井）
- ・保健部（古川）
- ・生徒会（太平）
- ・生活指導部（中川）

③ 意見交換

④ 質疑応答

1 学校経営計画

令和3年度学校経営計画及び学校評価において、目標を達成できない項目について次年度以降改善したい。

2 今年度の取り組みと報告

○卒業生の進路と今年度の進路状況

今年度は指定校推薦の枠が増えていて、就職については大阪府も今年度から複数応募が可能になる。専門学校については、すでに面接が始まっている。2学期からは面接や小論文指導を実施する予定。

○3学年

修学旅行の代わりにUSJが非常に好評で、体育祭等のイベントも盛り上がった。総合型選抜の申込みがスタートして、指定校推薦の募集も集まっている。41期生全員の卒業と、進路実現のため、全力で生徒と向かいあっていきたい。

○2 学年

学期初めのスタートアップで、アイスブレイキングを実施してクラスメイトと交流を深めることができた。今年の修学旅行は、南九州（熊本・宮崎・鹿児島）に決定した。この学年は、どの行事でも生徒たちが主体的に動いているが、提出物が出ていない生徒も数名いるのでスタディサプリー等を用いて学力保障を行っていく。

○1 学年

今年度は補充入試の関係もあり、全クラスで243名の学年。橋本の体育館でミニ運動会を実施すると、リーダーシップのある生徒が多いことに気づいた。クラブには8割近い生徒が入部している。また、新しく観点別評価が始まる学年になるので、問題集やノート等、色々な数字を引っ張り出して成績を出す必要がある。

○共生推進教室

今年度の卒業生で就職した生徒は毎日真面目に頑張っている。就労移行支援事業所を利用している生徒もいる。また、3年生は全員職場実習が決まっていて、1・2年生は課題もあったが、日々の努力により、サポートなしで授業に入ることができるようになった生徒も多く、頑張っている。

○学習指導部

3観点の観点別評価が始まっている。観点別評価の分析を学校内で行い、2学期以降も方法を検討していきたい。

○企画広報部

資料「4 4 期生向け学校説明会について」をご覧ください。

○保健部

全国的に新型コロナウイルスの感染者が急増しているが、本校も同様に増加しており、感染拡大防止に努めているところ。

○生徒会

新入生のクラブ体験を経て、クラブの入部率が80%近くに達している。体育祭では、保護者各家庭1名の入場制限を行ったものの、通常通りの体育祭を実施することができ、アンケート結果も非常に好評だった。

○生活指導部

昨年度と比べて遅刻が多い。1年生の遅刻が多く、2年生の同時期の遅刻数を超えることは今までなかったのだが、今年度は超えている。元気な学年であるが、そのエネルギーを学校のルールの中で発揮できるように指導していきたいと考えている。

3 意見交換

- ①ストレスチェックを受けている教員の割合が53%。企業側の認識としては、個人の認識を上回りストレスを抱えている場合もあるので、可能な限り全員に実施する必要があると思っている。
- ②地域とのネットワークの構築がとても生徒にとって刺激になっていると思う。今後も同様に真摯な取り組みを続けてほしい。
- ③学校経営計画について、改善点は説明して頂いたが、◎のところも多く、今後も同様に真摯な取り組みを続けてほしい。
- ④学校の満足度が1年生で高いのは特徴的。学校の取り組みが生徒に合っていると思う。
- ⑤「文字のユニバーサルデザイン化」や「授業1時間分の流れを前もって書いておく」等を行うことによって、どの生徒も容易に課題に取り組むことができる。小中だけでなく、高校の先生にもそういった認識を持って欲しい。
- ⑥共生推進教室ができて、長い時間が経ったが、「なぜこのような取り組みがあるのか」ということが薄れているように思う。共生推進の生徒だけでなく、他の生徒にも「共に学び、共に育つ」という理念をユニバーサルデザインの考え方とともに、当てはめてみるのが大切ではないか。

4 質疑応答

- ・南九州に行く目的？ ⇒ 平成28年に起きた熊本地震についての震災学習や自然体験学習。
- ・観点別評価とは？ ⇒ 今までは総合的に100点満点で評価。今年の1年生から、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」それぞれ100点満点で算出する。
- ・学校アンケートで記述欄を設けているのか？ ⇒ 自由記述欄が設けられている。
- ・ヤングケアラーについて ⇒ 7月20日に調査予定。今年度からスクールソーシャルワーカーの設置。